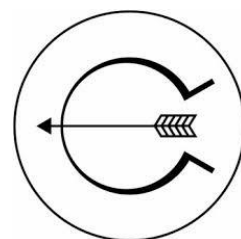


第70期 東京都学生弓道連盟

都学リーグ戦・女子部リーグ戦
立合・道場番要項【第4版】



東京都学生弓道連盟

【目次】

1. 立合の持ち物

2. 当日の進行

- 2.1 時間行程表（目安）
- 2.2 試合進行詳細

3. トラブル対応その他

- 3.1 トラブル対応について
- 3.2 その他連絡事項

【更新履歴・主な変更点】

9月9日(土) 第1版 公開

9月14日(木) 第2版 公開

- ・時間行程表、一部訂正（対面試合マニュアルとの整合性の確保）
- ・開閉会式の整列方法、参照先訂正（実施要項ではなく対面試合マニュアル）
- ・横矢処理・的直しの文言、訂正。

9月19日(火) 第3版 公開

- ・時間行程表、女子の試合時刻について追記。
- ・選手交代通知方法、書式変更。
- ・その他連絡事項、一部強調。

9月22日(金) 第4版 公開

- ・試合中の安全確認、入場方法変更。

1. 当日の持ち物

※全ての書類について、

必ずデータではなく印刷したものを持参すること。

①立合・道場番要項（主審副審ともに一部ずつ）

②公式記録用紙（一試合につき一枚）

・当連盟 HP よりダウンロード、印刷。

③選手登録用紙（競技校分）

- ・通常の試合であれば二校分、三つ巴以上なら、競技校数に応じて増量。
- ・立順登録する選手の出場資格確認に使用。
- ・メーリングリスト等で配信されたものをダウンロード、印刷。

④立順登録用紙（4枚、三つ巴以上なら競技校数に応じて増量）

- ・当連盟 HP よりダウンロード、印刷。
- ・2枚ずつ競技校にわたす。
- ・競技校は一枚を立合への提出に、他を相手校との交換に使用する。

⑤立合状（競技校分）

- ・公平で正常な立合をしたことを証明するもの。
- ・附矢開始したのち、競技校毎に一枚ずつ手渡しする。
- ・試合後、試合結果とともに写真を学連へ提出。

⑥東京都学生弓道連盟規約（1試合1部）

・当連盟 HP 内で検索、最新版の規約をダウンロード、印刷。

⑦筆記用具

- ・黒と赤のボールペンを使用
- ・赤は選手交代の明示、的中訂正、その他訂正に使用する。

⑧印鑑（主審副審ともに）

- ・立合状作成、諸訂正に使用。
- ・自分の名前が入っているものを持参すること。

⑨矢筒と矢（副審のみ）

- ・矢振りに使用する。
- ・矢筒は矢振り用のものを使用すること。
- ・原則、甲矢と乙矢の二本。
- ・三つ巴の場合は、先攻・中攻・後攻を明記した矢を持参。
- ・三つ巴以上の場合は、同様に対応する。

2. 当日の進行

2.1 時間行程表（目安）

| 行程 | 男子 | 女子（午前） | 女子（午後） | 立合仕事内容 |
|------|---------|--------|--------|---|
| 入場 | 9:05 | 9:05 | 13:05 | 道場番に設備確認 各校と段取り確認 |
| 附矢開始 | 9:40 | 9:40 | 13:40 | 立合状提出 立順用紙（公式）の配布 |
| 附矢終了 | 11:10 | 10:20 | 14:20 | |
| 試合開始 | 11:25 | 10:40 | 14:40 | 的見・開会宣言 |
| 試合中 | | | | ・立順表と選手登録用紙の照合 <u>（終わるまで試合開始させない）</u> ・的中確認と記録 ・ホワイトボードに記録掲示 ・その他トラブル対応 |
| 試合後 | 15:00 頃 | | | ・閉会宣言 ・試合結果を学連に報告 |

※女子部リーグ戦において、午前の試合が競射等やむを得ない事由により延長した場合は、午後の試合を上記の時間から繰り下げて実施すること。但しその場合は、その旨学連および午後の試合の当事校に連絡すること。

2.2 試合進行詳細

※試合進行を円滑にするために適切な注意を行うことを要するが、その判断は規約に基づいて厳正・中立でなくてはならない。

※試合進行の時間は会場の時計を用いることを原則とする。但し、ない場合は主審の裁量で基準とする時計を決める。

※原則として、立合は主審と副審の二人で構成されるものとする。

※道場番の仕事は2~3人で行うことを想定しているものとする。

①立合校会場到着（附矢開始時刻 30 分前）

- ・立合校は、附矢開始 30 分前までに師範席（立合席）に着席する。
- ・道場番は、最下位校が入場するまでに掃除・附矢的的の的かけなどの準備を済ませておく。

②荷解きなどの附矢準備・道場説明・巻藁調整

- ・競技校がそろったら動き始める。
- ・立合校は、持参の立合書類の確認を行う。
- ・立合校は、競技校、道場番と設備・進行の確認をする（道場番は道場説明を、競技校代表者と立合校に行う。）。

- 双眼鏡があるか（なければ道場番に準備してもらう）

- 的があるか（以下、原則の的数。適宜実施要項を参照し調整。）

| | 附矢 | 試合 | 予備 |
|----|----|----|----|
| 男子 | 8 | 4 | 2 |
| 女子 | 8 | 4 | 2 |

- 諸設備（トイレ、控室等）がどこにあるか

- 矢取方法について。立合が主導し、競技校同士の話し合いを進める。

附矢の矢取のタイミング・安全確認はどちらが主導するか、

試合進行中の安全確認・的中確認の方式確認（後述）、など、必要事項を事前に話し合っておく。

道場番もこの場に参加し、矢取り道等施設使用に必要な情報を提供する。

- その他注意事項確認（声出しの可否、行射中の看的方法の確認）

- ・携帯電話の設定を確認する。

- 学連事務所（03-6910-0791）にすぐ連絡できるようにしておく。

- 着信音がならないようにしておく。

※円滑に試合が実施できるように、不安点はここで十分解消しておくこと。

③附矢

・附矢開始宣言。開始時刻が近づいてきたら主審は師範席（立合席）の前に立ち、開始時刻になったら宣言する。

「附矢を、開始してください。」

- ・立合校は、立合状を競技校に配布する。対戦校一校につき一枚配布する。
- ・立合校は、公式立順用紙を競技校に配布する。
- ・附矢中の安全確認については、競技校間の取り決めによって競技校が行うものとする。立合校は、附矢の状況を監督するのみでよい。

※遅刻処理について

- ・競技校の遅刻が発覚したとき、その時点で立合校は学連事務所に報告する。
- ・競技校が附矢開始に遅刻した場合、遅刻する競技校を待たず、間に合っている競技校で附矢を開始してよい。なお、この処理については遅刻理由の正当性によらない。
- ・競技校が試合開始時刻に間に合わない場合、あるいは欠席した場合、その競技校を棄権校として扱う（ただし、学連側の不手際や天変地異など、正当な理由がある場合は除く。理由の正当性については、判断に困るようであれば学連側で判断するので、連絡すること）。また、競技校の棄権が確定した時点で、主審は、師範席にて不戦勝宣言を行う。三つ巴以上の場合で残る競技校が一校のみでない場合は、そのまま試合を実施する。

「〇〇大学の欠席により、××大学の不戦勝とします。」

④的見

- ・ 附矢終了次第、道場番は的場の整備、的替えをする。
- ・ 主審は射場に残り、的見を行う。
 - この時、的串は刺さず、的の下部を押して的を立てるだけの状態にしておく。
 - 的の呼び方　：大前、二的、落前、落
 - 位置の替え方：「〇〇、(気持ち、ほんの気持ち) 前 (後ろ) にしてください。」
 - 高さの替え方：「〇〇、(気持ち、ほんの気持ち) 上げて (下げて) ください。」
 - 傾きの替え方：「〇〇、〇時頃押してください (的を時計の文字盤に見立てて)。」
- ・ 主審の的見が終了したら、道場番は的場の両端で待機。主審副審は師範席前に移動する。

- ・ 競技校が控えにそろったのを確認したら、主審は持ち的の確認を宣言する。

「持ち的の確認をお願いいたします。」

- 第 70 期リーグ戦においては、第 48 回学生弓道合同研修会での議論を受けて、持ち的の確認は上位校と下位校同時に行うこととする。
- 各校選手は、的の位置調整が不要であれば、それぞれの責任者（主将）にその旨報告する。
- 各校選手は、的の位置調整が必要であれば、それぞれの責任者（主将）にその旨報告する。責任者は全ての的において報告を受けた後、まとめて主審にその内容を伝達する。
- 主審は、調整が求められた場合、最初の的見と同じ文言での的場に指示を出す。
- 主審は、全ての的の調整が終了したら、その旨的場に指示を出す。

「結構です。」

- 道場番は、「結構です。」の合図で、全ての的に的串をつけた的の位置を固定する。

⑤開会式

- ・試合開始宣言の前に、各競技校に確認を取る。
 - 的場にいた道場番が的場からいなくなったことを確認し、主審は、すり足で師範席から移動し、上位校から順に責任者の前で正座し、礼をする。
 - 小声で「時間となりましたので(お時間少々早いようですが・遅くなりましたが)試合を開始させていただいてよろしいでしょうか。」と試合開始の可否に関して確認する。
 - 了解が取れたら、礼をして立つ。
 - 再び主審・副審が師範席前に揃う。
- ・主審は、試合開始宣言を行う。
 - 「ご集合願います。」と言い、競技校の選手を整列させる。整列のさせ方は対面試合マニュアルを参照する。
 - 整列後、「只今より、第70期リーグ戦(女子部リーグ戦)、_____大学対_____大学の試合を開始させていただきます。」と言う(開会宣言)。
- ・主審は、立順用紙の提出・交換を行う。
 - 「試合に先立ちまして、両校(各校)責任者による立順用紙の提出、並びに交換をお願い致します。」
 - 提出は立合に、交換は競技校間で行う。
- ・副審は、試合の順番を決めるために矢振りを行う。
 - 「試合の先攻・後攻は矢振りにより決定致します。両校責任者の方、じゃんけんをお願いします。」
 - 副審は矢振りを行う。
 - 「只今の矢振りの結果、先攻_____大学、後攻_____大学により試合を開始させていただきます。なお、試合中に生じた出来事につきましては、学連規約により処理させていただきます。双方(各校)、礼。」

※矢振りについて

- ①両校責任者のじゃんけんが終わったら、持参した矢筒を開け、矢を取り出す。この時、互い違いにして羽を見せ、両校主将に、甲矢と乙矢が一本ずつ入っていることを確認させる(三つ巴以上なら、先攻・中攻……と印のついた矢がそろっていることを確認させる)。
- ②確認が終わったら、矢を矢筒に戻す。この時、箆が矢筒の底に向くようにひっくり返すことを忘れない。
- ③蓋をして、矢筒をふる。体の前で斜めに持って三回、後ろで斜めに持って三回、最後にもう一度前で斜めに持って三回ふる。

- ④もう一度矢筒を開け、矢じりの方を見せて両校責任者に矢を選んでもらう。なおこの時、副審は矢を互い違いに見せることに気を付ける。また、この時の矢を選ぶ順番は、じゃんけんの勝った方からとする。
- ⑤甲矢を取った方が先攻、乙矢を取った方が後攻となる。確認を終えたら、先攻の競技校の責任者は、「先攻」と宣言する。その後に、後攻の競技校の責任者は同様に「後攻」と宣言する。
- ⑥両校の宣言の結果を受けて、主審が開会式を続行する。

※ここに記したのは大まかな流れであって、引いた矢が甲矢か乙矢かの確認方法や、先攻後攻の宣言方法は多少の誤差を許容するものとする。あくまで、先攻後攻がランダムに決定されることを肝要とする。

⑥試合開始

- ・立合校は、出場選手の照合を行う。
 - 選手登録用紙と開会式で提出された立順用紙を参照し、フルネームの記述、学年、新人・旧人の扱いなど、正しく立順用紙に記載されているか確認する。
 - 選手のフルネームについては、万が一も考慮し誤字脱字まで確認すること。
- ・全ての選手の照合が終わるまで、絶対に試合を開始させないこと。
- ・照合後、立合校は黒板（ホワイトボード）に選手名を書く。
- ・これ以降、道場番は試合終了まで邪魔にならない場所で待機する。

⑦試合中

- ・立合校は、師範席にて進行状況を監督。適宜、トラブルに対応する（後述）。
- ・立合校は、公式記録用紙に的中を記録する。
- ・立合校は、適宜黒板（ホワイトボード）に掲示用の的中を記載。この時、公式記録用紙と記録の齟齬が無いよう注意する。
- ・主審は、的中確認をする。

※以下に、的中確認の方法について文言に至るまで一通りの方式を記載する。但し、これはあくまで一例であり、立合校の主導のもと両競技校が合意形成できる方式であれば問題ないとする。その場合、以下の点だけは絶対に確立されていること。

- ①人命に配慮した安全確認の方法が確立されていること。
- ②的中確認において、的場に確認開始の合図を出す者、および的場の確認に対して返答をする者はいずれも 公式記録を作成している主審である こと。

-入場に際して、**競技校は立合の合図で入場する**。この時、入場するタイミングで的場に人がいないかどうか、必ず確認すること。

-落の選手が本座まで退場して、安全確認ができ次第、的場に合図を出す。

「お願いします。」

-看的小屋で待機していた競技校の部員（自校の的中確認には自校の部員を的場に派遣すること）が返事をして出てきて、的中確認を行うので、公式記録用紙と照合する。落まで照合が終わり、問題がなければ、**「結構です。矢取りお願いします。」**と的場に指示を出す。的場の部員は、それを合図に矢取を開始する。

-照合の中で齟齬が見つかったときは、その都度**「もう一度お願いします。」**と指示を出し、もう一度きちんと確認してもらう。

-不明矢が出た場合、主審自らの的場に向かい確認する。その際は、当連盟規約の「的中の指針」を参照すること。それでも確定しない場合は、学連に直ちに問い合わせること。

-的中照合が完了する前に、絶対に矢に触れてはいけない。確認前に矢に触れてしまった場合、その的全ての矢を外れとする。

- ・立合校は、選手交代の処理を行う。
 - 交代届の内容と、選手登録用紙情報を照合する。確認が取れ次第、公式記録用紙へ記入する。
 - 立合校、相手校双方への書面での通知**、および**立合校による照合**が完了して初めて、交代を含めた立を開始することができる。交代が正式に受理される前に当該選手が本座より先に進んでしまった場合、不正な交代と判断し、その選手の行射および的中は全て無効とする。
 - 公式立順用紙の補欠欄に記載のない選手の交代は認めない。
 - 正規の書類・手続きを用いない交代選手の矢は無効とする。
 - 同一試合中の再出場は認めない。
- ・トラブル対応については以下に記述する内容を参考にすること。それでもわからない場合は、すぐに学連事務所に問い合わせること。

⑧閉会式、その後

- ・立合校は、ホワイトボードと公式記録用紙に記載されている記録に齟齬がないか確認する。
- ・主審は、勝敗宣言のための集合の前に、各校に試合結果の確認を取る。
 - 主審は、公式記録用紙を持ち、上位校から順に責任者の前まですり足でむかい、正座し、(揖をして、)礼をする。
 - そのまま小声で、「記録用紙の確認をお願い致します。」と言い、公式記録用紙を差し出す。
 - 了解が取れたら、礼をして、(揖をして、)その場をすり足で去る。
 - 主審と副審が、師範席前に揃う(この間、副審は師範席前で待機)。
- ・主審は、勝敗宣言を行う。
 - 開会式同様、競技校を整列させる。
 - 「ご集合願います。」
 - 「只今の試合の結果、先攻 _____ 大学、 _____ 中、後攻、 _____ 大学、 _____ 中、よって、 _____ 大学の勝ちとさせていただきます。」
(勝敗宣言)
 - 皆中賞受賞者がいる場合は、つけ足して宣言する。
 - 「尚、ただいまの試合で _____ 大学 _____ 年 _____ さんが皆中賞を獲得いたしました。」
 - 「双方(各校)、礼。」
- ・競技校の退室が完了したら、立合校は、連盟に結果を報告する。
 - 別途公開される試合結果報告用 Google フォームに必要事項を、試合会場を出る前に記入する。
 - 提出書類について追って学連から問い合わせる可能性があるため、立合を行ったその日は試合が終わった後も、電話が通じるようにしておくこと。場合によっては役員個人の携帯電話で問い合わせをすることもあるので、可能な範囲で知らない番号からの着信にも対応できるようにしておくこと。
- ・道場校は、待機状態から復帰して道場の跡片付けを実施すること。

※同中競射が発生した場合

→大きく変わるのは

- ①勝敗宣言の文言が変わること
- ②最終的な勝敗宣言の際に参照する的中が、競射の的中のみになることである。以下に流れを記載するので、同中競射が発生した場合は参照すること。

・上記の通り、各校責任者に公式記録の確認を行う。

・「ご集合願います。」

・「只今の試合の結果、先攻、_____大学、_____中、後攻、_____大学、_____中、よって同中となりましたので、これより一手競射（一本競射）を執り行います。」

・競射の先攻・後攻については、その都度矢振りによって決定する（当連盟規約第五十一条参照）。

「競射の先攻・後攻は矢振りにより決定致します。両校責任者の方、じゃんけんをお願いします。」

「只今の矢振りの結果、先攻_____大学、後攻_____大学により競射を開始させていただきます。双方（各校）、礼。」

・一手競射を行う。それでも決着がつかなかった場合、決着がつくまで一本競射を行う。一本競射においても、毎回矢振りにより先攻・後攻を決定する。そのため、競射を一度行うごとに「公式記録の確認→整列→結果宣言→競射実施の宣言・矢振り」の流れを行う。

・決着がついたら、再度同じ手順で公式記録の確認を行ったうえで、整列を行う。

「ご集合願います。」

・直前の、決着がつくに至った競射の結果のみを参照して、勝敗宣言を行う。

「只今の競射の結果、先攻、_____大学、_____中、後攻、_____大学、_____中、よって、_____大学の勝ちとさせていただきます。双方（各校）、礼。」

3. トラブル対応その他

3.1 トラブル対応について

以下に、よく想定されるトラブルへの対応方法について記載する。当日、該当する事例が発生した場合、立合校は、以下を参照の上、冷静かつ公正に対処すること。

①行射の妨げとなる刺さり方をする矢（横矢）が発生した場合

・主審が必要と判断した場合、あるいは当該大学の選手および介添えから申告があった場合、主審は行射を止める。

「次の取懸けをお待ちください。」

・射場に取り弾をしている人がいなくなったことを確認したら（安全確認）、主審は的場都合図を送る。

「〇〇（的の名前）、確認をお願いします」

・的中確認のための的場に待機していた部員が、合図に返事をして的場に出た後、その的的中確認を行う。主審は、内容に公式記録との齟齬がなければその旨合図を出し、矢取りを行わせる。

「結構です、矢取をお願いします。」

・矢取が完了したことを確認して、主審は行射再開の合図を出す。この時の安全確認の方法として、矢取をした部員が「どうぞ」などの合図を射場側に出すことを強く推奨する。

「行射を再開してください。」

・全ての行射が終了したのちの的中確認において、当該的的中は、矢を上げる前の的の中も含めた的中数を宣言するものとする。

Ex.) 大前の二本目が危険矢で、そこまでの的中が 1/2、そのあとの的中が 2/2 の場合
→「大前、三中。」

②行射の妨げとなるほどの的が傾いた（串から外れた）場合

・主審が必要と判断した場合、あるいは当該大学の選手および介添えから申告があった場合、主審は行射を止める。

「次の取懸けをお待ちください。」

・射場に取り弾をしている人がいなくなったことを確認したら（安全確認）、主審は的場都合図を送る。

「〇〇（的の名前）、確認をお願いします。」

・的の中確認のための的場に待機していた部員が、合図に返事をして的場に出た後、その的的中確認を行う。主審は、内容に公式記録との齟齬がなければその旨合図を出し、矢取りおよび的直しを行わせる。

「結構です、矢取お願いします。」

・矢取りおよび的直しが完了したことを確認して、主審は行射再開の合図を出す。この時の安全確認の方法として、矢取をした部員が「どうぞ」などの合図を射場側に出すことを強く推奨する。

「行射を再開してください。」

・全ての行射が終了したのちの的の中確認において、当該的的中は、的を直す前の的の中も含めた的中数を宣言するものとする。

3.2 その他連絡事項

・わからないことがあった場合、わからないままに試合を進行させてしまうのではなく、一度試合の進行を止めて学連に確認・問い合わせを必ず行うこと。現場が保存されている状況であれば、連盟として対処できる場面が大きいことは、立合をするうえで理解しておくこと。

Ex.) 不明矢が発生し、主審が実際に的場について確認したが、判断がつかなかった場合。
→現場を保存したまま、学連事務所に待機している役員に電話で問い合わせを行えば、学連としてもある程度対応できる（当該の不明矢について、写真を送ってもらう等）。わからないままに的中確認をし、矢取が行われた場合、公平性が損なわれる可能性がある。

学連事務所

TEL:03-6910-0791